

令和7年度第1回JCHO病院新宿地域協議会議事概要

日時：令和7年6月17日（火）13：00～14：00

場所：JCHO 東京新宿メディカルセンター 本館地下2階 第1・2会議室

出席者：迫村委員（新宿区医師会）

鈴木委員（健康部健康政策課地域医療係）

田中委員（新宿区榎町高齢者総合相談センター）

秋山委員（白十字訪問看護ステーション）

津吹委員（新宿区笹笥町管内町会連合会役員）

山田委員（新宿区町会連合会）

東京新宿 MC： 関根委員、川畑委員、吉浪委員、小野委員

東京山手 MC： 橋本委員、大竹委員、野村委員、笠井委員

司会：東京新宿メディカルセンター院長 関根信夫

議事概要

1. 開会

○関根委員

本日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ニュースではイランイスラエル問題、米の値上がりもあり、医療界も大変です。NHKの特集でも経営が厳しいという指摘がありました。我々病院がどう役に立てるか相談したいですので、長時間となりますがよろしくお願いします。

2. 委員の紹介

（各委員より自己紹介）

3. 両施設の取組について

○東京山手メディカルセンター

大竹委員：スライド資料により説明

笠井委員：スライド資料により説明

○東京新宿メディカルセンター

川畑委員：スライド資料により説明

小野委員：スライド資料により説明

4. 意見交換

○山田委員

JCHO 病院は治療プラスアルファで非常に努力されていると感じます。個人的にも大変お世話になっています。外国人の割合が多いのではと推測します。治療と保険の問題等で苦勞されているのではないで

しょうか。

○津吹委員

新宿病院は特に緩和病棟でお世話になり、見取り、訪問医療、看護、リハビリが大変ありがたいという声を聴きます。当町会会長自身がりハビリを行っていただき、90歳を超えて歩けるようになっていきます。阿波踊り、各種イベント等、郵送いただいたポスターは掲示板に掲示しています。ぜひ町会の皆さんにも参加していただきたいです。阿波踊りは牛込警察署での実行委員会打合せで、7月後半4日間という高温化が著しい時期に今までどおりの地域活動をしていいのかを検討していますが、警察も悩んでいるところです。JCHO病院にもご指導いただきたいと思っています。

○迫村委員

阿波踊りの白衣連は、初期は熱中症が多かったものの、途中で給水場を設置したり、休憩時間を入れてくれているので、熱中症は少なくなった印象です。倒れたらJCHO病院がありますので安心です。

高齢化が進んでいますが病院の状況を聞いてみると、救急受け入れや逆紹介が増えているにもかかわらず赤字であったり、設備投資が必要となり、診療報酬の増額について日本医師会が頑張してほしいところです。山手MCは笠井先生のお力で高齢者の患者が多い印象ですので、入退院をスムーズに進めていただけるとよりいいと思います。キントーンというアプリを使い、緊急の患者さんがいる場合も新宿の黒川先生から夜中でもすぐ返事来るといったありがたい状況です。タブレットでの連携も進んでおり、訪問看護ステーションなどにおいてもテレビ電話が活用されているので、病院、介護施設にもそれをひろめて密に連携していきたいです。新宿区はかなりうまくいっているとは思いますが、難しいことがあれば早めに連絡をいただき、困難事例もうまく診られるような連携をとっていきたいです。

○笠井委員

高齢者困難症例は救急でも増えており、2014年から比べるとこの10年間で地域で支える体制ができてきました。相談できるのがなによりありがたいことです。病院として難しい場合は転院調整となりますが、入退院を繰り返すことになるので悩みます。

○秋山委員

阿波踊りは、熱中症対策や途中で休憩、水分補給、時間変更、季節をずらすことは、難しいとは思いますが可能でしたらご検討をお願いしたいところです。暮らしの保健室は熱中症予防講座を毎年開催し、参加される方がいます。経口補水液を夜間も手に取れるところに置く重要性を繰り返し説き、繰り返すことで予防行動が出来ています。山手MCの取り組みの中で、ボランティア活動再開の記事が大変うれしかったです。高齢化にともなって自分が活躍するところがなくフレイルになってしまう方々が、地域の中で要介護にいたらないよう、「不惑倶楽部」「写真倶楽部」等自分の趣味が発表できる場所があるのはすごくいいことと思いました。

○大竹委員

コロナ禍で中断していましたが、昨年度よりボランティア活動を再開できました。不惑倶楽部は主とし

ラグビー部OBが活動、写真倶楽部はロビーに季節の写真を展示して好評を得ています。年に1回病院で懇親会を開催し、意見交換をしつつ労う場を設けて交流を深めています。私も去年初めて顔を合わせて協力をしていただきありがたいと、直接お礼の言葉を伝えることができました。

○田中委員

医療と地域の連携事例や、急性期からの退院の依頼に当センターも対応しています。今はどこも人手不足で、ケアマネジャーとヘルパーがおらず事業所が閉鎖されています。入院中から高齢者総合相談センター、ケアマネが介入して、適切に介護保険サービスを使用する説明の場があるとスムーズな退院支援の場を気づけますが難しいと感じています。

○鈴木委員

私共の業務内容として、入退院支援の連携、在宅医療支援窓口などについて保健師と看護師3名で対応します。まずはACPのお礼を伝えたいです。区で企画しても集まらないですが、聖母病院との連携した開催はとてもよかったです。また、ACPについては新宿MCと9月30日に学習会を共催しますので、山手MCともぜひ共催したいです。がん患者さんのウィッグのご案内を配布しておりますが、条件が緩和されて合計上限10万円まで支給できることとなったため、是非紹介してほしいです。

5. 閉会

○橋本委員（山手）

初めて参加しましたが、皆さんの率直な意見が聞けて大変良い時間でした。当院も少しずつですが、膝教室、糖尿病教室を実施していますが、なかなか来てもらえないため外部発信を進めていきたいです。ACPのパンフレットは外来待合に並べていますが、説明ができていないのが現状です。ミニミニ講座で看護師によるがん関係の教室も開きたいので、今後ともぜひご協力のほど、よろしく願います。

以上にて閉会となる。